

投げた

花火の出所

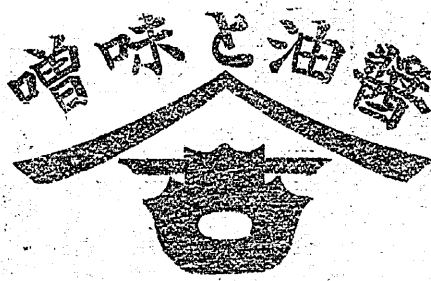
伊知地は語る
 平署に取押へられた花火投げ犯
 人建國會員伊知地義一(二六八)は
 東京府下三河島町子の神七五に
 居住するもので、石城の高野の
 湯にをれば分らないと思つて茶
 たが何分にもつかまへてしまつ
 ては分らない、まア三年位の間
 役は受けるかも知れないが、出
 たならば共産黨撲滅の運動をや
 るつもりだ、と氣をあげ引取
 りに來た警視廳特捜課樋口刑事
 部長から投げつけた花火は三河
 島花火工場爆發の際拾つたもの
 だらう、と念を押され「さうな
 りがあつては仕方ありません、ま
 ん」と悪びれもせず犯行を肯定
 してゐた。

映畫界

半泣きになつた彌次と喜多も
 安田との奇遇で始めて一息つ
 いたが、折角の兵隊志願も調
 練場の空想も篠原隊長の一喝
 てメチャクチャにされた、斯く
 て明治元年正月二日鳥羽街道
 を進軍する官軍精銳の後方隊
 兵糧方に我々の彌次喜多が汗
 を拭ふてゐる。戦争! 血煙!
 逆上した、安田は傷いた、事
 態! 此處で彌次喜多は見事
 を叩いて敵陣に突進した、官軍
 は漸く混亂の極に達した。こ
 の時砲聲の響きに死の音は
 下あつた、彌次と喜多はすつ
 がり恐怖心から一變した。や
 がて我に返つた二人は錦旗を
 拵けて唯敵軍へ突進し始めた
 白煙の中に彌次は苦境に
 陥つた官軍の士氣を振り起し
 た、惡戦よく突進! 又突進!
 見よ戦線はるかに皇軍は大進
 軍を始めた。彌次と喜多は只
 「錦の御旗を知らぬか」と叫
 い續けて行く。(平館)

今朝近火の際は早速御駈付御見舞
 被下難有御禮申上候一々拜趨御禮
 可申上善之處混雜中尊名伺洩れも
 可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候
 三月二十七日
 平町字杉平

赤塚勇吉



山崎合名會社
 東京支店
 上野車坂四三
 電話下谷五七二二番
 振替東京六八三二二番

學生生學
 學生帽
 平町四丁目
 ツヤルヤ店
 電話四百四十四番

高貴藥 濟命ピリン
 定價廿錢 卅錢 五拾錢 壹圓
 〇かせ〇ネツ〇頭痛〇齒痛〇神經痛〇リウマチスの方よ!!
 一時も早くきよめ第一の本劑を服薬され健康体となられよ!!
 發賣元 平町町 水野藥局
 〇有名藥店にあり

産婦人科専門
 婦人内科
 婦人外科
 妊婦診察其他一般
 産婦人科部長 醫學士 五十嵐雄二
 顧問 醫學博士 川添正道
 本院主事 醫學博士 賀澤忠治
 看護婦見習募集
 共濟病院
 城警 平(電話六四一〇番)

家庭の温泉 湯之花
 本品は天然純粹の硫粉、リウマチス、神經痛、貧
 血症、神經衰弱、子宮内膜炎、痔疾、田虫、水虫等、効
 あり、其の神健者温浴すれば心身爽快なり。
 特約店 平町一丁目 大平屋藥店
 電話六四二二番

セメント 壁用材料
 コルタルペンキ塗料
 板ガラス
 代理店 西村屋藥舖
 平町二丁目 電話三三番

牛豚肉特價
 牛 中肉 百匁 金三
 上肉 百匁 金五
 口肉 百匁 金七
 豚 中肉 百匁 金九
 口肉 百匁 金十
 廉賣肉の 深谷牛肉店
 平町停車場前(平劇場入口)
 電話五二四番

和洋銅鐵 金物問屋
 釜屋商店
 警城平 電話一九三九番

金印半天專門
 優秀品の証明
 草野染工場
 警城平町 電話三四八番

二十三日 特別大興行 木曜日
 原作監督... 池田富保氏畢生の名作
 河部五郎、大河内傳次郎兩優大俳優
 松竹浦田本年度大作 朝日新聞所載
 原作加藤武雄、監督池田義信、栗島すみ子、清水一郎主演
 轟天雷 卷十全
 轟天雷 卷八全
 朝日新聞所載 前田暁山氏原作
 日活秘寶映畫 故尾上松之助主演
 轟天雷 卷七全
 全國協定料金打破本館特別料金
 二等大四〇〇 一等大五〇〇 特等小三〇〇
 二小一〇〇 小二〇〇 小三〇〇